

各委員から提案された『新市の将来像(案)』のまとめ

【将来像】

【委員による案】 まちづくりの柱(目標)に類した順

1. 環境に優しく走るモノレールのまち
2. 森がはぐくむ水の力、水が育てるまちの力、まちにいきづく人の力
そんな「森」「水」「まち」がはぐくむ「さがみのちから」を生かしたまち、新しいエネルギー、パワーがみなぎる「水と緑の交流新都さがみはら」の創造
3. 新生 新市名 水源の森林を育み、美しい河川で心を繋ぐ、我らが築く 輝く未来のまち
4. 都市と水源地が共に潤うまち
5. 人と緑と水源が共生する都市 新生さがみはら
6. 都市と自然の調和のまち
7. 都市機能と豊富な自然環境を有する新都市相模原
8. 都市と自然が調和し、住みやすく人と人がふれ合うまち
9. 人と自然が共生し、輝きと愛があふれる人間都市
10. 賑わいと自然が調和した人間都市さがみはら
11. 誇れるわが町、胸はる子らを、育む自然
12. 緑あふれる住宅都市
13. みどり豊かな魅力あふれる都市 市
14. 豊かな自然と融和した人にやさしく輝く都市
15. ひとと自然の共生文化都市
16. 人と自然の融合空間 地域の個性を生かすまち・さがみはら
17. 人・まち・自然がやさしく調和する (新市名)
18. 豊かで明るい水と緑の産業文化都市
19. 水とみどり豊かで活気ある産業のまち
みどり豊かで安心して住める産業のまち
みどり豊かでみんな住みたくなる産業のまち
20. 緑と水の自然に恵まれた、輝きと愛がある、産業、観光、学園都市 さがみはら
21. 都市と自然が調和(融和)する環境で市民一人ひとりに輝きあるみらい型新都市へ
22. ひと集う、水と文化の新生CITYを目指して!!
産業、観光、娯楽、日常生活など全ての面で人が行き交い活気あるイメージで「ひと集う」文化、自然、施設などの共生を進めていき、新しいまちを創る
23. 活力と楽しさ、安心と憩いのまちづくりを市民誰もが心掛ける「自立した 70 万人都市」相模原市
24. こころのなる街
25. みんな 元気で明るく ふるさと創生 さがみはら
26. 生活大都市 都市の多種多様な可能性を住民が共有し、生かせる
27. 住民がつくる永住したいまち・相模原市(仮称)
28. 輝き！新未来都市 さがみはら
29. 活気とやさしさの街 共に創る喜び

1. 交通・都市基盤

【目標1】

未来型交通システムの新しい都市 人・自然・文化・産業の交流の橋渡し
安全、快速、市内のどこへも30分で移動(基地との共存、安心のまち)
1市3町をつなぐ環境に優しいモノレールがまちづくりと繁栄には一番
環境負荷が小さく移動の自由(人権)が保障される交通システムづくり
1市3町の連携と産業経済活動、住民生活を支える広域交流交通網づくり
交通問題の解決、鉄道(モノレール)の延伸、巨大な理想都市の創出
水と緑の交流新都にふさわしい、質の高い都市基盤整備
首都から相模原市中心部そして津久井地域を結ぶ大交通網整備事業
生活基盤の充実 時間距離の平等
自然と調和した都市基盤の整備
市内の距離感を縮める - 時間と空間を短縮

2. 自然・環境

【目標2】

日常的に自然を肌で感じよう
自然と人との共生
自然 - 潤いのある「まち」、落ち着いた風格のある「まち」づくり
水源・農地・緑地を活かした都市計画
都市住民と水源地住民が協働で造る千年の森
吾らを育む、青い空、鮮やかな緑、澄み切った水
大自然と都市との融合「新しい都市像」 緑特区
湖と緑を活かしたまちづくり
豊かな自然と住民との共存
環境保全 水・緑を守り、ごみを減らす
まちづくり資源(湖と緑) 潤いのある風格あるまち

3. 産業・観光・土地利用

【目標3】

先を見通す「これから旬産業」の推進
豊かな市民生活を支える都市整備の充実
持続可能な地域社会づくり(地産地消・職住接近)
地域と環境と健康
ゆとりある豊かなまちづくり
観光資源(湖と緑) 湖と緑を楽しむ
観光でにぎわうまち

4. 教育・文化、医療・福祉、安全・安心

【目標4】

バランスのとれた勉学、遊学
のびのび教育、安心子育て
子どもがいきいき育つまちづくり
未来の子どもの子育て支援
未来を託す子らへのプレゼント
将来を担う子供たちが、こころ豊に明るく、元気に、生き生きと活動できるまち
豊かな心を育む教育 子育て支援日本一
歴史、文化、伝統を大切にした特色あるまち
市民のみんなが安心して元気に暮らせる「まちづくり」
引き継がれる我々の軌跡を大切にする
顔の見えるお付き合いが大きな力となる
必要な人に必要な支援を
共に生きる喜びを育む
地に足つく生き方の教え
すべての世代・すべての国籍の人にとって、住みやすいまちをつくる
安心・安全を保障する住民のネットワークづくり
安心して暮らせる街づくり
安心できる揺り籠から墓場まで
魅力ある新学園都市
安心して子育てのできるまち
安心できるまち(やさしさ) - 人の交流、福祉、医療 -
安心して住めるまち
永住できるまち
誕生から死まで心のこもった「生」への(ホスピス)もてなしができるまちづくり
孫達と祖父母が仲良く隣近所で交流できるまちづくり

5. 市民参画・行財政

【目標5】

市民一人ひとりが主役のまちづくり
市民が自立したまちづくり
自己責任意識を持つ
地域が支え助け合うまちづくり
市民が地域を愛するまちづくり
元気な市民の元気なまちづくり
市民主体の個性豊かなまちづくり
都市コミュニティを通して心が豊かにはぐくまれる都市、精神醸成生活
地域のことは住民で決める - 分権型の地域社会づくり
地域主権型社会の創造
「市民一人ひとりがいきいきと躍動するみらい型新都市」をめざそう
20年後に合併の効果が実感できる行財政シミュレーションづくり
皆が解かるフルオープンな行財政
積極性のある自治体の促進
麻痺している現在の行財政を効率的で質の高い改革を！
政令指定都市を目指した都市内分権による効率的な真の分権型都市
少数精鋭集団の職員(の育成)と行政パートナー(の創設)との協働型市役所
運営
先進型電子市役所(の活用)と都市内分権とのバランスの取れた行政改革
日本型使いきり予算都市からの脱出と長期的な視点での財政の健全化へ向
けた財政改革
(自治会代表型議員から脱出し)政策提案型議員で構成された議会
小さな組織と大きな自治意識
自分たちのまちづくり
効率的で質の高い市政のための行財政改革
異なる特色の市町が交流しあえて発展するまちづくり

第5回まちづくり検討委員会を受けて、まちづくりシートで提案して頂いた目標案
これまでのまちづくり検討委員会であげられた目標となる意見

新市の将来像、まちづくりの柱（目標）（案）

新市の将来像

相模原市、城山町、津久井町、相模湖町の1市3町からなる本地域は、首都東京から約40～60kmに位置することから、相模原市を中心に急速な都市化が進み発展してきました。また、一方、相模湖、津久井湖、城山湖などにより神奈川県重要な水源地域となっており、津久井地域を中心に丹沢大山国定公園に指定されている豊かな自然環境を有しています。さらに、さがみ縦貫道路・津久井広域道路の整備が計画されるなど、広域的な交流拠点としての新たな発展の可能性が高まっています。

このため、新市においては、水源地域の総合的な保全・活用を図りつつ、豊かな自然環境と共生した都市基盤の整備や産業の振興を推進するとともに、住民一人ひとりが主体となり、新市に住む人が将来にわたって安心して質の高い市民生活を実現できるまちの創造を目指します。そこで、新市の将来像を次のとおり定めるものとします。

『

』

まちづくりの柱（目標）

新市の将来像を実現するための、まちづくりの柱（目標）を以下の通り設定します。

交通・都市基盤のまちづくりの柱（目標）

都市の健全な発展と市民生活の利便性や快適性の向上には、骨格となる交通網の強化と質の高い都市基盤の整備が重要となります。

このため、国道を中心とした交通渋滞の解消および、さがみ縦貫道路・津久井広域道路等の早期整備を図るとともに、鉄道輸送・バスネットワークの強化、新しい交通システムの導入等に取り組むことにより、高齢化や日常生活圏の拡大に伴う多様な交通ニーズに対応した公共交通網の確立を目指します。また、水源地域の保全に向けた上下水道の整備やごみ不法投棄対策等を進めるとともに、情報基盤の整備や美しい景観の形成、スポーツレクリエーションの充実等を進め、快適で魅力ある居住環境の創造を目指します。

自然・環境のまちづくりの柱（目標）

新市の西側は、広大な森林や清流、湖など緑豊かな自然環境に恵まれた地域であり、かつ、神奈川県重要な水源地域となっています。

このため、水源涵養や保健休養等の森林の有する多面的・公益的な機能に配慮した保全方

策の推進とともに、自然環境に対する意識の啓発を図ります。さらに、河川・湖の水質の向上やごみ投棄対策を推進し、水源地域の総合的な環境の向上を目指します。

また、市街地とその周辺においても、相模川や里山・谷戸などの貴重な水辺や緑が残っており、市街地での良好な緑の形成により、うるおいあるまちづくりを目指します。

産業・観光・土地利用のまちづくりの柱（目標）

新市の活力ある発展とゆとりある豊かな市民生活の実現には、多様な産業の振興と計画的な土地利用の推進が重要となります。

このため、首都圏近郊や豊かな自然環境を有する立地特性を活かした工業や農林業・観光の振興とともに、市内での生活の核となる商店街・商業施設等の活性化を図り、地域経済の発展と魅力ある観光拠点の形成を目指します。また、さがみ縦貫道路や津久井広域道路の整備を踏まえた計画的な土地利用を進め、市街地の高度利用や山間地での適切かつ効率的な土地利用により、良好な居住環境の創造と秩序ある都市の発展を目指します。

教育・文化、医療・福祉、安全・安心のまちづくりの柱（目標）

人々が安心して生き生きとした市民生活を実現するためには、質の高い教育や医療・福祉の充実と安全なまちづくりが重要となります。

このため、学校施設・学校教育の充実や市内の自然・文化の活用による人間性豊かな教育の実現とともに、病院や福祉施設と家庭・地域とが連携した医療・福祉体制の確立により、高齢者や障害者、子供を持った家庭が安心して生活できる地域社会の形成を目指します。また、市街地での都市型災害や山間部での土砂災害等に対する防災対策や地域社会の変容に伴う防犯対策を進め、市民が安全に生活できるまちづくりを目指します。

市民参画・行財政のまちづくりの柱（目標）

新市住民一人ひとりが満足した生活を送るためには、住民自らが地域に関心を持つとともに、行政は市民の多様なニーズに的確に対応した行財政運営を推進することが重要となります。

このため、地域コミュニティの育成、自治会活動の推進により、住民同士が支え助け合う地域社会を形成するとともに、行政と住民とのパートナーシップの構築、ボランティア活動の推進など、住民の声が市政に反映され、住民自らもまちづくりに参加する主体的で開かれたまちづくりを目指します。また、行政においては、効率的な行財政改革を進め、行政サービスの充実、情報公開の推進等を図り、質の高い市政運営に努めます。